

氏 名：白谷 佳恵  
学位の種類：博士（看護学）  
学位記番号：甲第 125 号  
学位授与年月日：2015 年 3 月 10 日  
学位授与の要件：学位規則第 4 条第 1 項該当  
論文審査委員：主査 麻原きよみ（聖路加国際大学教授）  
副査 廣瀬 清人（聖路加国際大学教授）  
副査 中山 和弘（聖路加国際大学教授）  
副査 石川 信克（結核予防会結核研究所所長）

論文題目：Directly Observed Treatment, Short-Course (DOTS)による服薬療養支援  
と結核患者の療養生活との関連

### 博士論文審査結果

本研究は、Directly Observed Treatment, Short-Course (DOTS)による服薬療養支援を受けて療養する結核患者の Quality of Life (QOL)との関連を明らかにし、概念モデルを構築することを目的に、121 名の結核患者に対して聞き取り、あるいは自記式による質問紙調査を行った。その結果、DOTS の頻度により診断時の症状、生活状況、服薬療養支援の実施状況、QOL の値に差がみられた。また、DOTS の頻度ごとに重回帰分析にて QOL の関連要因を明らかにし、概念モデルを検討した結果、DOTS による服薬療養支援は、結核患者の服薬行動と QOL 向上に関連していることが明らかとなった。

審査では主に以下について議論され、修正が求められた。

- ・タイトルに示される「概念モデルの構築」が目的を示すのか方法論を示すのかわからない。研究目的等に基づきタイトルを再考すること。
- ・変数間の関係については、変数の特性に応じて分析手法を考慮すること。分析における欠損値の取り扱いについて注意深く行うこと。また、図表には正確な数字を記載するよう配慮すること。
- ・自作の質問紙すべてについて因子分析を実施しているが、すべてを尺度化して妥当性検証する必要があるのかを再考して、分析、記述すること。
- ・DOTS の頻度による 3 群について、群ごとに QOL を従属変数とする重回帰分析を行い、探索的に関連要因を見出しているが、 $n$  の数、共線性や、標準化係数、決定係数の値から、信頼性の高い分析と言えない。研究の目的、文献検討や予備研究の結果、相関分析の結果等から独立変数を選択して分析すること。
- ・「DOTS による服薬療養支援を受けて療養する結核患者の QOL」に関する共分散構造分析の結果は、潜在変数と観測変数の関係性が適切でない箇所が多く、モデル自体の信頼性が乏しい。どのような因果関係をみたいのか、概念モデルを再検討し、それに基づいて分析すること。
- ・統計的な分析結果を質的分析結果で解釈するような記載をすること。

以上の指摘に関しては、審査後に修正・加筆が行なわれ、審査委員から確認が得られた。

DOTS による服薬療養支援が QOL と関連するという結果は今までほとんど見られず、その関連性を明らかにしたこと、また、ホームレスなど接触がむずかしい対象からもデータを継続して収集したことなどが高く評価された。本研究は、DOTS の服薬療養支援の意義を明らかにした。また、本研究結果は、看護職をはじめ保健医療者の結核患者への支援のあり方に多くの示唆を与えることが期待される。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。

